

# 第11回(平成25年度)助成団体の活動成果について

平成26年5月10日(土)に開催の成果発表会にて、各団体による活動成果の報告が行われました。

	団体名	活動企画案内	助成金額
助成団体 部門	もちもちパソコンくらぶ	高齢者向けのもちもちパソコンくらぶ	4.3万円
	可部地区社会福祉協議会 ボランティアバンク「りんりん可部」	ボランティアで着用するベスト	4.1万円
	計 2団体		8.4万円
まちづくり活動 発展助成部門	ファッションセラピーの会ヒロシマ	おしゃれに関するふれあい教室(出張も含む) & 第5回ヘア&ふれあいファッションショー	37.3万円
	安花の会	花と緑のある楽しいまちづくり	6.8万円
	藤の木学区まちづくり推進協議会	団地東側のり面 花いっぱい運動	45万円
	権現峠の自然をまもる会	権現峠の歴史古道伝承による伴中央地域の まちづくり	29.3万円
	高陽ニュータウンまちづくり市民会議	子ども・高齢者・地域支援事業	46.3万円
	さんらいず	まちづくり=ひとづくり ~人と人との心をつな ぐさんさんキャンプ~	30万円
	輝く命のプロジェクト	映画「うまれる」広島自主上映会	13.3万円
	やさしさのまちづくり屋台村	市民による3Dネットワーク事業	43.3万円
	特定非営利活動法人 ひろしまジン大学	地域共生社会創造～green ground market～	29.5万円
	牛田の歴史と文化を生かしたまちづく りの会	牛田むかし話 紙芝居公演	24.8万円
計 10団体		305.6万円	
施設整備助成分野			
	特定非営利活動法人 NPO狩留家	水車小屋発電所を作り、情緒豊かな憩いの 場(交流の場)を作る	231.5万円
	特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター	湯来町の自然・文化を伝える「古民家 SATOYAMA」改修プロジェクト	250万円
計 2団体		481.5万円	

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	高齢者向けのもちもちパソコンくらぶ
②実施期間	2013年4月1日～2014年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催；もちもちパソコンくらぶ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) パソコンを始めたいが何となく怖い、分からないといったこうれいしゃの方たちを対象に、古江の「古田のおうち」にて、「そばにいるよ、ゆっくりと、ていねいに」をモットーとしてパソコンを指導し、パソコンの面白さを知ってもらうと同時に、高齢者の仲間づくりと認知症予防のお役立ちを行った。 <b>【開催回数&amp;学習者数など】</b> ・いきいきコース (Word 中心の講座) 開催回数 27 回 学習者 120 名 指導者数 80 名 ・チャレンジコース (Excel 中心の講座) 開催回数 21 回 学習者 97 名 指導者数 62 名 (詳細は別紙に記載)
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) <b>【今後の展開】</b> 2014年4月から古江に続き、河原町でも同じ活動を開始する <b>【課題】</b> ① 学習者集め 古江、河原町の2か所で開催することとなるが4～10名/回の学習者集めに苦勞しており、会場近くの社会福祉協会や公民館へ募集のチラシを置いてもらっている。 ② 学習内容 継続学習者が多いため、少しずつ学習内容をグレードアップしているが、徐々に高度となり講座内容の設定に苦勞している ③ 機器 ・パソコン：昨年夏、大塚商会様からパソコン5台を寄贈いただいたので購入分1台と合わせて6台となったが、2014年4月から河原町でも同じような講座を開講するためにもう数台必要（現在は講師、サポーターのパソコンで対応） ・プロジェクター；古江の講座は、もちもちの木が保有しているものを借りているが、河原町にはなく、教えるのが難しい状況。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、  
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	ボランティアで着用するベスト
②実施期間	平成25年 7月25日 ~ 平成26年 3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 可部地区社会福祉協議会 ボランティアバンク「りんりん可部」
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 高齢者、障害者からの依頼により、ボランティア活動を行って いる時、ベストを着用することにより、不審者と間違えられること がなくなり、活動するボランティアも依頼した方も安心感が 生まれて良かった。
⑤今後の課 題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ベストの着用により、ボランティアバンク「りんりん可部」の 活動をより多くの人に知ってもらい、活動を広げたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	おひれに関するおひれの教室(出張も含む) & 第5回「マ」おひれのフツツョセラピー
②実施期間	2013年4月1日～2014年3月31日
③実施主体	<p>(主催) 共催、(後援) 連携した機関・団体など</p> <p>主催：フツツョセラピーの会ヒロツマ          後援：広島県・広島市・社団法人広島県医師会・社団法人広島県歯科医師会・          財団法人広島市緑都創造財団・社会福祉法人広島市社会福祉協議会</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 平成25年</p> <p>4月1日より4月末日まで第5回「マ」おひれのフツツョセラピーの出演モデル募集を行いました。60名の申し込みを受けました。6月24日(月)事前説明会を広島市社会福祉センター2階ホールにて本会の趣旨目的等資料を共に説明し、前回のDVDを少し鑑賞して頂き、次にお一人お一人自己紹介「おひれの愛・思い・希望」等のお話しを聞きます。フツツョセラピー会員によるウキキリンの説明を受けた後に1人1人全員が体験されます。その次に最終エントリー(2000円)52名申し込みが確定しました。9月30日(月)回会場に60着のドレス着物・ドレス道具等を運搬し52名の希望者の衣装部屋にてお一人お一人衣装を合わせ決定します。その衣装を付けてお一人お一人写真を取り付け、お写真を各美容師が受け取り担当者で決定します。10月28日(月)リハーサルを行いました。番組と全く同じようにプログラム順に希望のおひれの夢の世界の音楽に合わせてフツツョセラピー会員によるご指導を受けながら、お一人お一人がフツツョセラピーに近づいてゆかれます。すてきな姿勢と目力が生まれ気が高揚されます。おひれは毎朝感動(おひれ)し希望の夢を叶えあげ「おひれ」が一つに気持ちがおひれ全員とつながります。11月4日(祝日)は1人1人本番です。スタッフモデル全員が9:00集合。お一人お一人メイク・衣装と大変身美しい。出演モデル様のうれしい喜びの声が笑顔が大きくなっていきます。ご覧になられるご家族、皆様は美しく生き生きとしたうれしい喜びの声が会場一杯が満開に美しい花が咲きます。m'sおひれ様心からありがとうございます。感謝一杯でございます。</p>

⑤実施効果

(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)

第5回「アズ&ふれあいファッションショー」開催におきましてお出演モデル参加者52名、会場参加者284名、スタッフ150名、関係各位様と共に「明日につながる楽しい笑顔、美しく変身された元氣一杯なお姿の喜こびを重畳で「第5回開催の皆様」と一諸に共有をさせて頂きました。又障害のおもちの14才おびより2人より94才の高齢者モデル出演者52名、ご家族の皆様とお友達とヘルパーの皆様との「明日につながる楽しい元氣な笑顔」を頂いております。写真を持って友達に見せてます。と今日喜びの言葉を頂いております。笑顔の輪、元氣ばかり持ちの和が広がっているとは、きり実感を感じております。反響の広がりも大変大きく感じています。

⑥目的の達成状況

(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)

平成27年11月第1回「アズ&ふれあいファッションショー」を総括し、広島市において第5回目として開催を行いました。モデル出演者200余名、会員、ボランティア団体、大生、専門学校、企業の総合スタッフ7550名、他関係各位様のご協力、ご支援の結果、お陰様により「ファッションショー」の会場の目的、目標につながる「出演者の希望、お山の夢を叶えるお手伝い」が皆様と一諸に達成出来ました。そして出演者本人、ご家族、お友達、ヘルパー、ホールに参加下さった「ファッションショー」を観賞された皆様(930名)と喜こびの笑顔、共有し、体感され、生き生きと明日につながる楽しい笑顔、重畳で共有し、私しを頂くことが出来ました。中国新聞社、朝日新聞社、産経新聞社、ケーブルテレビ、ふれあいチャンネル、新広島SBSテレビ様等へ広報を以下しました。

⑦今後の課題・展望

(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)

上記のことから、より多くの方に「アズ&ふれあいファッションショー」に関わっていただくことが、楽しく、暖かい地域づくりを実現すると考え、ファッションショーに関わる人数の増加と輪、和を一つの目標としていいます。「第6回「アズ&ふれあいファッションショー」は出演者50名、総合スタッフ130名、観賞者330名を目標として計画設定しています。又、広報としては皆様方のご協力の結果の中で、障害のおもちや高齢者、ご家族が「ファッションショー」を通じて「お山の夢を叶える喜こび」を共有し、企業様、プロ美容師、着付けを行うブライターアテンド、ドレスを着飾るブーケを作るプロデジナー、ステージでの歩き方を指導するプロモデルといった専門的プロ技術を持つ人間が独自のネットワークを形成し、力を合わせることで、他の団体ではできない事業を実現させていきたいと思います。こうした中で「明日につながる楽しい笑顔の喜こび」を実感させ、以下モデル出演者の皆様より会員になりスタッフとして共に活動をして頂いております。

注意:助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的にすすめるため公開しますので、個人が特定できる情報(個人情報)は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	花と緑のある楽しいまちづくり
②実施期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関、団体など)</p> <p>主催 安花の会 協力 安公民館、地域内集会所等</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>場所 安公民館、地域内の集会所 各回15～28名が参加。 高取北一丁目の花苗づくり圃場 花苗づくりの実習、体験。</p> <p>研修会・勉強会・講習会 安花の会主催の研修会を4～11月に毎月1回開き、独自の内容が好評。 花に関心のある方なら年齢・性別不問、参加費無料。 「早期の種まき法」「鉢花の高温対処法」など。 花づくりのリーダー・後継者の育成。</p> <p>実施方法 一般論でなく、具体的方法・手段を実践をまじえて経験から話しているから、聞く方も受け入れやすい。 参加者に種まきしてもらい、自宅に持ち帰って育ててもらい、翌月持ち寄って、ポット上げをして、半数を持ち帰って育ててもらい、残り半数は公共花壇用に提供してもらいます。 また、花の種の自家採取をして提供して下さるように、多くの人に呼び掛けるとともに、種の無料頒布もしている。</p> <p>参加者 参加費無料で随時参加出来、人数に制限を設けていないので毎月参加者が増えていく。参加することでメリットがあることが受けていると思われる。 参加者の中から高取圃場で花苗の育苗管理の仕方を楽しんで頂く方法で人材確保をしております。 高取圃場で育苗中の花苗は欲しいだけ自宅に持ち帰ってもらいます。 ボランティアとはいえ、労力提供だけでは人は集まらないと思います。</p> <p>連携 グループ内活動に埋没せず、他グループ・団体と積極的に交流して、新たな知識等の交換や共同企画、共同作業も行っています。 例、安佐南区民まつりでの花の塔づくり、花の塔用の花苗づくり。 安公民館事業への参加（男女共同参画の企画など）</p> <p>運営資金 育てた花苗は公共花壇に提供するだけでなく、一部を地区内のイベント会場等で販売して育苗資材や学習教材費に当てるなどしている。 育苗等への労力提供者への手当、交通費などは出しておりません。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>花苗づくりの過程を実地に体験して頂くと共に、育て方を具体例をあげて学習することで、参加者には理解しやすいと好評を受けている。「らしっく」をはじめ中国新聞社から取材をうけ、安花の会に対する関心度が高まっているのが実感できる。 安公民館では4つの花壇が出来るなど成果が出てきています。</p>
<p>⑥ 目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>人を集め、花壇を作っただけでは、水やり等の労力提供に終わってしまい、熱意が冷めていきます。 「花苗を育てる」実地研修をすることで一定の効果を上げる事が出来ました。</p> <p>「花苗を育てる」ことから花を通じて「人を育てる」「人の輪を広げる」ことを目的にして研修を重ねてきたのが良かった。 単に「花を育てる」だけだと個人でも出来、発展はなかったと思います。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>一般参加者は増えているが「リーダーづくり」が遅れている。 今後は、花づくりの「人材育成・後継者づくり」を目的として、「花づくり」づくりは一手段として進めたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	団地東側のり面花いっぱい運動
②実施期間	平成25年 5月12日 ~ 平成26年 3月31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催・・・藤の木学区まちづくり推進協議会          後援・・・藤の木学区4町町内会・町内会まちづくり代議員          協力・・・芝桜を育てるボランティアの会及び住民有志</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>○藤の木団地、再生に向けて学区4町町内会が一体化して取組んだ、地域活動である、団地法面、芝桜お花いっぱい運動は、2年目の計画が終わる中、今まで雑草が生い茂り、殺風景な団地の法面の姿が1つ1つの形となり、芝桜のお花畑に生まれ変わって来ました。</p> <p>①活動拠点と規模          藤の木団地東側法面一帯・・・横幅200m・縦30m</p> <p>②活動日数と作業応援者の延人数          5月～3月 活動日数 122日 作業応援者延人数 987名</p> <p>③法面の雑草除去に向けたアグリシートかけ、土砂流失防止と作業足場の確保を行い、初年度に植え込んだ7つの白の花文字周辺を赤の芝桜で植え込みました。</p> <p>ふじのきだんちの7つの白の花文字が赤の芝桜の中に浮かびあがります。</p> <p>○活動の一番大きな目的である、藤の木団地再生に向けてコミュニケーション・対話・絆の輪がありがたい事に藤の木団地1800世帯の中に拡がっている事です。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)          広島市提唱の「花のある街並づくり」に藤の木団地あげて取り組みます。          ①3年計画で取り組んでいる芝桜花いっぱい運動は、単に団地の法面に芝桜を植えるのが目的でなく、寂れた藤の木団地にはしてはならない為に、団地再生に向けて取り組んでいます。          ②住民のコミュニケーション・対話・絆の輪が拡がり、完成を地域住民が待ちわびる声が届きます。          ③団地の将来に夢と希望を与え、藤の木団地のブランドを大きく育てると共に、今後のまちづくり活動に弾みをつけて行きます。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)          ①1年目の作業工程から、2年目の作業工程へと計画を町内会役員会で十分に練り上げ取り組んだ結果、この2年間を通して目的通りに作業進捗が出来ました。          ②3月29日には、藤の木小学校の6年生の卒業記念として、芝桜の苗を植え付ける行事が実施されました。          ③この夏は、異常に暑かった。60～70歳代が作業応援者のメイン年齢である事から、体調面な管理が大切な工程の1つになりました。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>一過性でない地域活動である事から          ①作業に協力頂く人員の確保・・・作業ローテーションの組立てが出来る様になれば最高。          ②活動資金面の確保(情報の共有と活動の報告・・・支援体制の強化)          ③勉強会での志気の高揚(ノウハウの積み重ね)</p> <p>上記が課題である事には変わりがない。          基本計画を大事に、新しい活力の生まれる弾みある藤の木団地に向けて、お顔の見える地域づくりへ          ○コミュニケーション ○対話 ○絆の原点を芝桜の笑顔で拡げて行きます。</p> <p>小さなまち藤の木に「中国5県No.1芝桜お花畑」を完成させます。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	権現峠の歴史古道伝承による伴中央地域のまちづくり
②実施期間	平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日月
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催 権現峠の自然をまもる会          共催 沼田公民館          後援 伴中央町内会</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>活動支援基金が決定後下記の事業を実施致しました。</p> <p>5月21日：会員17名全員を集め公開審査の経過報告と会則・会員名簿の確認          6月9日：会員全員で今年度の事業計画を確認(会場 沼田公民館)          7月7日：会員全員で古道の整備と沿線の芝刈り・神社の掃除を実施          7月4日：沼田公民館と共催で歴史研修会を開催(会場 沼田公民館)          歴史研究家の善保さんを講師に依頼(伴地区歴史・文化の魅力発見)          会員全員と地域内外の人43名の参加者(会員の歴史知識の向上とモチベーションアップ)          *合わせて会員の募集も行いました。</p> <p>7月20日～8月20日          道路案内板及び看板柱の材料手配・材料の加工・塗装・仮組みの実施          看板のマップ説明書のデザインと製作          *事業計画では、鋼製の看板を予定していましたが、会員の皆さんから自然をまもる会にとって鋼製は、会の目的に反するとの意見が出てぬくもりのある木製(丸太・柱)に変更致しました。</p> <p>8月25日：道路案内板5か所の取り付け(幟旗含む)とアストラムライン伴中央駅東側に基礎打設を実施。会員17名により実施          9月1日：会員全員で権現峠案内看板をレッカーにより据え付け完了          据え付け場所：ストラム伴中央駅東出口付近          9月21日：権現神社に案内板取り付け準備と散策古道の芝刈り実施。          9月22日：会員全員で権現神社に案内板(由来説明含む)の設置と合わせて散策古道(伴中央歴史古道)の清掃を実施。          11月24日 会員全員で権現神社周辺と伴中央歴史古道の芝刈りと清掃作業実施          (お正月前作業含む)</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中国新聞・みんかんTV・ケーブルTV等で多くの地域にPRできた為、案内看板を設置後多くの登山者が地域外から訪れるようになりました。また、沼田町全域のまちづくりのリーダーシップ役を担っている。約80~90人/月の人が権現峠をめざして登ってくれています。最近、健康志向の人が多くなっています。</li> <li>●他地区からの参加者も参画頂けるようになりました。現在会員23名に増加</li> <li>●沼田公民館・伴学区町内会連合会とジョイントして常に権現峠の情報を流している為多くの町民が登ってくれている。また口コミでも広域に情報が流れている。</li> <li>●沼田のまちづくりとして根付いてきている。</li> </ul>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>当初の目的を95%達成致しました。</p> <p>計画達成できなかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●修大・市立大・安佐南区役所散策マップに記載を依頼したが現在の印刷枚数の在庫が多い為、次回印刷時となった。</li> <li>●看板は、鋼製を予定していたが自然をまもる会の目的に反すると会員の意見があった為、全て自然の木材(丸太から製材し製品にした)を使用して製作した為、大幅な製作費用がかかった。しかし非常に見栄えのある看板が2枚(2ヶ所)出来あがった。特に製作には重みのある、自然にマッチした、だれが見ても見やすい看板に致しました。</li> <li>●看板に重点を置いたため備品購入までおかねがまわらなかった。</li> </ul>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度の計画で権現峠・神社を案内板・道路誘導板によりハード面は、完成したが、ソフト面が課題である。今後どの様にしたら次会来いただけるか？その魅力作りがポイントとなります。</li> <li>●権現峠・神社内で楽しめる定例行事の計画と権現峠で一休みできる簡易式レストハウスの設置と散策古道の滝周辺にマイナスイオンが満喫できる休憩箇所を計画したい。後世に継承していくためにも、登山者に分かりやすい案内マップ(由来説明含む)の作成をしてハイカーたちに配布したい。(幅広い地域にPRを狙う。)</li> <li>●会の運営の中(会員の中に)に地域の学生を巻き込んで新鮮なアイデアと若者の心をわし掴みにするノウハウを取り込む。</li> <li>●伴中央地域のまちおこしが、伴学区はもとより沼田町内のまちづくりの見本となるような行動計画を実施したい。</li> <li>●権現峠から見晴らしが良くなるような周囲環境(景観)づくりへの挑戦</li> <li>●登山道沿線(伴中央歴史古道)の古道整備(何カ所か歩きにくい箇所あり) (常時、高齢者でも気軽に安心して安全に登れる歩道の整備)</li> </ul>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	子ども・高齢者・地域支援事業
②実施期間	平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催・・高陽ニュータウンまちづくり市民会議 共催・・広島県住宅供給公社</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>「子ども支援事業」</p> <p>1. 子どもの見守り 月曜日から金曜日 16時から19時まで小学生3名を見守っている</p> <p>2. 勉強会 平成25年11月より16時から21時まで小学生3名・中学生8名を週3回塾の先生が勉強を教えている</p> <p>「高齢者支援事業」</p> <p>子どもがいない時間帯を利用して高齢者の講師が高齢者の受講生に手芸教室や洋裁教室を行っている。受講料は趣味の延長として1回200円と材料費を取っている。</p> <p>「地域支援事業」</p> <p>1. お助け隊は高齢者が高齢者宅に出向き、庭の除草や剪定を行っている。 高齢者には最低賃金で仕事をしてもらい、ほとんど利益なしで請求している。</p> <p>2. 平成25年8月から9月にかけてガイドヘルパーの講習を行い10名のスタッフを養成した。このスタッフで高齢者の移動支援を実施する為、現在募集中である。</p> <p>3. 毎月第3日曜日におもちゃのお医者さんを開設している。現在毎回父兄や子ども達が2～3名利用しており、1回100円と材料費を徴収している。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子ども支援事業では保護者から非常に喜ばれている。</li> <li>高齢者支援事業では非常に安い授業料なので口コミで徐々に増えている。</li> <li>地域支援事業では高齢者が高齢者宅に出向き仕事をしている為、高齢者が安心して</li> </ol> <p>いる。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>現在子どもの見守り、勉強会、手芸教室、洋裁教室、お助け隊、おもちゃのお医者さん、ガイドヘルパーの高齢者移動支援等色々事業を実施しているが広報不足により子ども達や利用者が少なく助成金なしでは家賃や水道光熱費(現在広島県住宅供給公社の温情により無料)が払えない状況である。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子ども見守りや勉強会にはスーパーのパン屋さんに協力してもらい軽食として子ども達にパンを提供している。子ども達からは200円の会費(一人親家庭が沢山いる為値上げができない)を徴収した内でパン代100円程度を考えていたけれど段々と値段が上がり、150円程度となっている。従ってパン1個ではお腹も空くし利益もない状況なので今後どのようにするか現在検討中である。</li> <li>お助け隊は地域に貢献するためには安い値段で実施しなければならない。しかしながら高齢者が仕事をするため、利用者の損害補償や仕事をする高齢者の事故の補償も考え保険を掛けている。よって利益ほとんどなし。</li> <li>ガイドヘルパーを充実させて少しでも利益を上げようと思っているが市の登録ができない為、全額個人負担となる利用者のみを対象としなければならない。よって将来は市への登録も考慮している。</li> </ol>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、  
 個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	まちづくり=ひとづくり 人と人との心をつなぐ「さんさんキャンプ」～
②実施期間	2013 年 4 月 1 日 ～ 2014 年 3 月 30 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 さんらいず
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第7回「さんさんキャンプ」</p> <p>2013年6月1日(土) 広島市三滝少年自然の家にて実施                  ティキャンプでも目指す子ども像や目標達成に向けてしっかり話し合い。                  内容めいっぱい。学年別のゲーム・野外炊飯を行いました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第8回「さんさんキャンプ」</p> <p>2013年11月2日(金)～4日(日) 広島市三滝少年自然の家にて実施。                  例年通り。事前説明会もごんちゃんらとELCにて                  テーマ：おつかい！おつかい！おんねのち                  3日間通じていかにふりがえりELC。明日へつながるよう                  していただきます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第9回「さんさんキャンプ」</p> <p>2014年1月25日(土)・26日(日) 広島市似島臨海少年自然の家にて。                  テーマ：ネバーランド                  事前説明会・ごんちゃんら実施。                  似島を「ニのランド」と名前を設定し、物語に合わせて考えた。                  前回アンケートで出た意見に答えたいという工夫も。                   さんさんキャンプ 対象 小学1年生～4年生                  目的 仲間とおどろきあふれ、自分のおどろきなど。仲間のおどろきなどを探                  見つけ、人とのつながりを大切にする心を育てる。</p> </div>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>さんさんキャンプに参加した子どもたちが、これをきっかけに他団体のキャンプへ参加していると保護者の方から教えていただいた。</p> <p>参加だけでなく、中学生になり地域の子ども会活動に積極的に参加していたり、同じようなボランティア団体のスタッフを目指しているということもわかっています。</p> <p>自分から人へあいづいたり、話しかけられるようになったという声も届いている。</p> <p>口コミもとんとん広がっている。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>アンケートの結果や子どもたちの姿から私たちの目指す目標・目的は達成できた。しかし、参加人数を言えば実施日が小学校の行事と重なることが多く、参加が集まりにくい日もあった。</p> <p>子どもの姿、状態をキャッチして内容を工夫し、全スタッフで共有して対応することができた。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>広がったコミュニティの中で、情報を集め、実施日の設定をしていきたい。</p> <p>今後もプログラム一つ一つをこまめに考え、進行・展開をしていきたい。</p> <p>なぜ私たちはキャンプがしたいのか、キャンプを通じて何を伝えたいのかを毎回全スタッフで確認していきたい。</p> <p>課題をかかえた子どもの参加も増えている(うれしいこと)ので、キャンプのスキルだけでなく、そういったスキルを磨いていきたい。</p> <p>これからの新しいスタッフ、新しい参加者を迎え、一人一人の輝く活動をつづけていきたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	映画「うまれる」広島自主上映会
②実施期間	平成 25 年 8 月 18 日 ~ 平成 26 年 3 月 30 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 輝く命のプロジェクト
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) <p>◦ 命の大切さがわかるドキュメンタリー映画「うまれる」の自主上映会を、広島市内 8 区 8 会場と安芸郡府中町 2 会場で実施。</p> <p>8月18日(日) 午前・安芸区民文化センター 午後・安佐南区民文化センター</p> <p>8月24日(土) 午前・中区まちづくり市民交流フォーラム 午後・安佐北区民文化センター</p> <p>8月25日(日) 午前・南区民文化センター 午後・東区民文化センター</p> <p>8月31日(土) 午前・西区民文化センター 午後・佐伯区民文化センター</p> <p>1月25日(土) 府中南公民館 (府中南小学校・府中南公民館 共催 PTA 家庭教育講演会)</p> <p>3月30日(日) 府中公民館</p> <p>全 10 会場で動員数合計 617 人</p> <p>。対象者は 特定しなかったが、20代 ~ 40代 女性が多かった。ご夫婦・ご家族連れでの来場も多かった。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>平成24年10月におきた見童虐待死(20代母親が小学5年生の娘を死なせた)事件から、命の大切さを再認識したいとの思いで実施した。</p> <p>母親が、広島市内から安芸郡府中町に移住して事件を起こしたことから、その足跡をたどるように広島市内8区と府中町で自主上映会を実施した。</p> <p>鑑賞後、母親たちからは「出産時の感動がよみがえった」「子どもを大切に育てたいなどの好意的な意見が多く寄せられ、虐待のない社会づくり、子どもの健全育成に効果があったと自負している。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>当初、11月の虐待防止月間に、府中町で映画「うまれる」の監督 豪田トモ氏を招いて講演会の開催をめざしていたが、8月の広島市内8区上映会での動員数が目標に達しなかったため断念した。告知のしかたを失敗したと思う。</p> <p>その一方で、参加者からは「感動した」「地元で開催されたからこけ見に行くことができた」「都合で見られなくなったも次の週末も広島市内へや、していたので便利がよかった」と非常に喜ばれた。この点は成功だったと思う。赤ちゃんやお子さん連れでも鑑賞できるよう、「ママさんタイム上映」と実施した。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>告知活動に時間も費用もさけない中、活動を続けていくことの難しさを実感した。</p> <p>今年秋以降、この映画の続編が公開予定となる。「続きが見たい」という方も多く、私達団体のメンバー全員が無理のない範囲で自主上映会の活動を続けていきたいと思う。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	市民による3Dネットワーク事業
②実施期間	平成25年 6月 1日 ~平成26年 3月 31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>やさしさのまちづくり屋台村</p> <p>地域貢献、まちづくり団体など22団体の参加。協力4団体。イベントには安佐北区役所の後援</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>① やさしさのまちづくり屋台村 実施：2013年9月1日実施</p> <p>5月から実行委員会を立ち上げ、開催に向け2週間に1回程度会議を重ね、22団体の参加、4団体の協力があり9月1日のイベントを成功させた。当日は台風上陸により風雨の強いなか安佐北区総合福祉センターでの開会式後、可笑屋までの市中を約100人がパレードした。屋台とステージでは、介護、福祉、教育、環境、若者支援、まちづくり等の各団体の日頃の活動を紹介し、住民との交流を図ることができた。屋台は趣向を凝らした展示物、販売、接客等により訪れた人びとと会話しながら交流した。参加団体のメンバーは、背中に「KABE JAPAN」の文字と宝船をデザインしたユニフォームを着用し団体の枠を超えた可部の活動団体「屋台村」の仲間として一体感を強めた。</p> <p>② 「井戸端会議」は、2013年1月から毎月第①水曜日に定例会を開催(会の名称は「水の会」)。毎回15~20名の住民と介護・福祉現場で働く者が地域課題についての情報を交換しながら、「学びのコミュニティ講座」開設に向け連携を強めている。また、こうした活動に期待して古民家での新たな拠点開設の話が浮上し、関係機関及び地元関係者との協議を進めるとともに構想づくりを進めている</p> <p>③ 「もてなし隊」は、可部の歴史やまちづくりなどの見学や視察で訪れる人びとのガイドを地元大学の学生を含む官民による広範な団体、個人の参加によって実施している。これまでに完成させてきた共通ガイドブックに加え、この度もてなし隊ユニホームネクタイを新調した。</p> <p>ポータルサイトは、ホームページの構成と更新作業を担う人材確保に手間取ったが、立ち上げたことができ参加団体の登録作業を進めているところである。これにより、やさしさのまちづくり屋台村の参加団体をはじめとするイベント、可部のまちづくりを中心に地域の情報発信力を高めることができた。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>屋台村は1日で完結するイベントではあるが、開催に向け4ヶ月の会議を重ね気心が知れる関係づくりができた。呼びかけがあれば団体の枠を超えて駆けつけるなど、団体や地域を越えてさまざまな場面での協力関係が強まった。こうした屋台村のノウハウが広く安佐北区全体の行事(安佐北元気フェスタ)の際にも導入されることになった。また、社会福祉協議会が催した自治会・町内会とNPOの交流会議も屋台村のつながりが生かされることになった。</p> <p>もてなし隊と屋台村で作成したユニフォームは、可部のまちへの帰属意識を高め、よりいっそうの一体感を生むことになり、今後の活動のさらなる糧になるものである。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>「やさしさのまちづくり屋台村」の当日は雨のために例年より参加者が減少したが、継続した活動により住民には浸透してきた。ポスターをスーパーなどへ掲示した他、新聞折込みも行った。ステージは若者の参加が図れるよう準備した。</p> <p>イベント準備として会議や設営などそのほとんどを自前で行うなかで、個人や団体のことを理解する機会が増え、新しいアイデアが生まれ、参加団体も増えてきた。</p> <p>屋台村のユニフォームは可部の郷土意識が盛り上がるデザインで満足感が高まった。もてなし隊のユニフォームは、廉価ながらもかっこよさが滲み出るよう工夫した。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>「水の会」は、地域課題についての共通認識を持ち、具体的な実践課題に取り組むために3年程度の積み重ねが求められる。また、新たに拠点となる古民家の使用について構想を実施にしていくまでにはさまざまな調整が必要となる。しかし、可部の「可笑屋」と同様に亀山地区の新たな活動拠点となる可能性を秘めている。</p> <p>ポータルサイトは、ホームページ開設はでき、登録作業中である。今後は、日々の更新作業を誰がどのように担い、管理運営していくのか課題となる。水の会メンバーの1人が取り組んでいるが、可部の活動状況を網羅するサイトとして、広範な団体、人の協力と情報の集中をいかに行き、効率よく更新できるか課題となる。</p> <p>地域には個別の団体が単独で取り組むだけでなく、さまざまなネットワークの元多くの住民の参加により解決への糸口が見出せる。屋台村は「みんなで楽しみながら」「てづくり」「手間暇を厭わず」に非営利、地域貢献団体と住民が協働するモデルとして、他の地域への波及、さまざまな協働場面で生かされることになった。今後はこうした屋台村らしさを存続しながら、増え続ける参加団体の活動できる新たな会場、若者が参加する事務局体制をどのようにつくるのか、課題となる。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	「地域共生型社会創造 green ground market」
②実施期間	2013 年 4 月 1 日 ~ 2014 年 3 月 30 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：ひろしまジン大学 連携団体：3 年間で 81 団体
④内 容	<p>●春・秋の green ground market →春 5/18・19 初の二日連続開催。合計 25 組の出店者と 8 つのワークショップを実施。 →秋 11/3 小雨降る中、23 組の出店者と 7 つのワークショップで開催。来場者数 約 2,500 名。 ここまで 3 年間で 6 回試みて 4 日『雨』という天候に恵まれないイベントとなってしまうが、雨二モマケズ楽しみにきてくださる方がいて、今年は雨でも売り切れる店が複数あった。</p> <p>●大朝たんぼゼミナール 通年での交流プログラムを実施。こちらも 3 年を経て定着しつつある。26 年度より運営主体を中山間地側が担うこととなり、これまでの参加者と共にプログラムを企画・実施していく。立ち上げた交流プログラムが自走への移行期に入った。</p>
⑤実施効果	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>3 年前の申請当時は東日本大震災の前であった。その後、食の安全・ライフラインの確保・地産地食などへの関心が高まる中で、「中山間地域との物流・交流の窓口をつくる」という目標はある程度達成できたと考えております。作り手(出店者)の皆さん、参加者さんのみなさんも楽しみにしてくれており、これから活発な交流が生まれるための土台作りはできたように感じております。</p> <p>中山間地側も 3 年を経て、迎えてくださるおじいちゃん・おばあちゃんたちも「よそ者」に慣れてきて、都市からの参加者が来るのを心待ちにしている状況になりました。参加者も継続的な参加者と新規の参加者のバランスもよく、交流プログラムのひとつのフォーマットができたと言える状況です。作成した竹テントも好評で、他のイベントでの使用を希望する声も多数いただき、運営資金を生み出すツールとしての可能性を感じております。</p>
⑥目的の達成状況	<p>目指すものは概ね達成することができた。ただここまではあくまでコミュニティー経済のプラットフォームとしての土台ができたに過ぎない。今後はさらに多くのモノ作りをされている方、交流プログラムを運営されている方とネットワークを形成し、新しい交流と物流を形成していく「場」として存在意義を高めていきたい。</p>
⑦今後の課題・展望	<p>1. 自立的発展性 マーケットは他イベントとの親和性も高く、今春は 2 か所からコラボレーションの話があった。マーケットの企画運営を事業として請け負うことで、自主財源を形成していきたい。また竹テントのレンタルの依頼も来るようになり、こちらも財源確保の一助になればと期待している。</p> <p>2. 活動の将来計画 マーケットとしては定期的に継続する。中山間地との交流企画については、自主企画というよりは、すでに各地域で興っている交流イベントの窓口として発展していきたい。</p> <p>3. 他団体との協働 まちづくり・農・食・地域活性・子育て・高齢化など様々な社会問題に対する活動主体と連携を取りながら、幅広く『つながる』空間づくりをしていきたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	「牛田むかし話 紙芝居公演」
②実施期間	平成25年 4月 1日 ～ 平成26年 3月 31日
③実施主体	<p>主催：牛田の歴史と文化を生かしたまちづくりの会                  共催：牛田学区社会福祉協議会、牛田学区子ども会育成連絡協議会、                  牛田地区老人クラブ連合会、牛田公民館、牛田商店街振興組合、                  牛田ニュース、広島光明学園、牛田成年会太鼓組、町民有志                  後援：寿永山 安楽寺 賛助出演：牛田きらきら親子ひろば</p>
④内 容	<p>【実施方法】</p> <p>① まつり会場やイベントに出向し、ジャンボサイズの紙芝居を上演します。紙芝居の内容は、牛田に語り継がれた「むかし話」で、絵は牛田在住の方(プロ・アマ問わず)が描いた作品です。語り、効果音、歌など、すべて牛田の町の人々が生出演で行います。</p> <p>② 牛田にある文化(伝承話・施設・木遣り)を活かし、二葉山や牛田の町の散策会を開催、次作品「菅原道真公」の製作(台本製作・絵の構想)につなげました。</p> <p>【活動地域や会場、対象者】</p> <p>① 牛田公民館「ふるさとまつり」において『二葉山の天狗』『白龍さん』を公演。(5/19)</p> <p>② 「天神岩清水を巡る～二葉山散策会」開催。町内掲示板にて案内、当日は雨の中25名の参加、木遣り保存会の唄・案内人の解説など、好評のうちに終了しました。(6/2)</p> <p>③ 牛田公民館「いきいき大学」にて、地域の伝承話紹介として『安楽寺の大いちょう』『いたずら狸』を公演。(6/27)</p> <p>④ 牛田商店街主催「ほおずき祭り」において、『白龍さん』を公演。 ケーブルTV、町内の教育施設での宣伝協力のおかげで、たくさんのお客様にご来場頂きました。今回も、日本語&amp;英語の語り、手話通訳、オカリナ伴奏・親子合唱もあり、お年寄りから小さな子どもさんまで幅広い年齢のお客様で賑わいました。(7/21)</p> <p>⑤ 宇品「郷土資料館・夏祭り」にて、『安楽寺の大いちょう』『いたずら狸』を公演。 町外のたくさんのお親子さん方にご覧頂きました！(8/11)</p> <p>⑥ 早稲田神社「観月祭」にて、『二葉山の天狗』『いたずら狸』を公演。 お月見の宴を楽しまれる方々に、ご覧頂きました。(9/19)</p> <p>⑦ 「第2回牛田散策会」開催。神社仏閣で話を伺ったり、文化財・仏像などの拝観もあり、アンケートにて参加者の皆さまから沢山お褒めの言葉や喜びのお言葉を頂きました。 * 東区歴史と文化でまちづくり交流会の共催イベントとして開催。雨の中ではありましたが、約50名の参加。(11/3)</p> <p>⑧ 「考古学から見た東区の歴史」において、『白龍さん』を公演。市の広報紙などで告知もあり、たくさんのお客に観て頂きました。 * 東区歴史と文化でまちづくり交流会の共催イベント (H26 2/22)</p> <p>* 今年度も、町内の団体から依頼を受け、ジャンボ紙芝居の貸し出しも行いました。 (管理は牛田学区社会福祉協議会事務局) 様々な行事にて活用されました！</p>

⑤実施効果	<p>① 地域のサークル・公民館学習団体等、様々な団体の方が賛助出演して下さったおかげで、少しずつではありますが応援して下さる方が新たに増えました。活動報告のため、『会報～その参』を発行、活動 PR にも役立つので今後も続ける予定です。</p> <p>② 今年度の活動は、紙芝居公演にとどまらず、地域の文化財や文化施設にもスポットをあて「牛田町散策会」「勉強会」を開催しました。東区地域起こし推進課の呼びかけで立ち上がった「東区歴史と文化でまちづくり交流会」にも参加し、お互いの地域について勉強会を開いたり、東区の PR にも一役を担えました。</p> <p>③ 当会の活動を知った「牛田中学校パソコン部」の顧問の先生が、次作品「菅原道真公」の資料をいろいろと調達くださったり、また学生に絵を描いてもらえるのもいいな・・・！など、地域との連携もさらに拡がりそうです！</p> <p>④ 当会の会員さんが、私たちの活動を通して牛田の町の文化について興味を持たれ、色々調べておられるうちに、「安楽寺の大いちょう」における貴重な文献が発見されました！私達にとっても嬉しくありがたい情報が得られました。</p> <p>⑤ 社協が取り組まれる「道路愛称検討委員会」に当会の役員が参加しながら、「うしたの歴史と文化」を共に考えることができました。いよいよ「案内板」「道路名称」が牛田の町に整います！</p>
⑥ 目的の達成状況	<p>① 計画していたことの1つ、歴史や文化を生かした「牛田散策会」を2回開催することができました。遠方から参加して下さった方もおられ、アンケートから参加者の皆さまにも充実した行事であったことがわかりました。</p> <p>② 当会を立ち上げるにあたり、町内の各団体代表者が役員として参加して下さったおかげでつながりが深まり、年齢の幅を超えた行事が開催でき、町の方々にも喜んでいただけました！紙芝居公演を見られた方から、「貸し出し依頼」も入るようになり、牛田社会福祉協議会のご協力にて いつでも貸し出しできる体制も整い、町の財産として有効に活用できることも大変ありがたいことです。今後も、この活動が“町の元気の素”になればと願います！</p> <p>③ 設立されてから3年が過ぎ、定例会への参加者も安定し、議事報告を Fax&amp;ネット送信する体制も整えて情報を共有するなど・・・活動も安定してきました。また、メンバーがいろんな形で責任を分担できるよう、行事にチーフ制を取り入れ、行事もより充実できました。</p> <p>★大変残念なことです。次作品「菅原道真公」の紙芝居が今年度中には仕上がりにませんでした。台本・絵の構想までは整っているため、次年度に引継いで完成を目指します。</p>
⑦ 今後の課題・展望	<p><b>【展望】</b></p> <p>『牛田の歴史と文化を生かしたまちづくりの会』という長い名称には、“むかし話”に留まらず、「牛田の様々な歴史的文化を掘り起こそう」との願いが込められています。平成25年度は「菅原道真公～牛田伝説」を作成するために、勉強会や「道真公が歩まれた山の探索会」などを開催し、台本・絵の構想までは整いましたが、まだ原画製作に入れていません。平成26年度には絵を仕上げ、ジャンボ紙芝居を製作します。</p> <p>また、東区の他地域で同じように「歴史や文化」を継承するために活動しておられる団体さんとの交流「東区歴史と文化でまちづくり交流会」も立ち上がりました！豊かな繋がりになることと思います。</p> <p><b>【課題】</b>みんな、日常の仕事の中で時間を作りながら運営しているので、大変なこともあります。灯火をみんなで守りながら続けていきたいと願っています！</p> <p>今後も、会員やボランティアスタッフを増やすことが課題です。</p>

注意: 助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、  
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	水車小屋発電所を作り、情緒豊かな憩いの場（交流の場）を作る
②実施期間	2013 年 5 月 11 日 ～ 2014 年 3 月 31 日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催 特定非営利活動法人 NPO 狩留家          共催 狩留家地区社会福祉協議会 狩留家郷土史研究会          てくてく中郡古道プロジェクト 狩留家シャギリ保存振興会</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>① 水車フォーラム in 狩留家を開催          場所：安佐北区狩留家町の集会所          対象者：大学教師、市役所経済部農林課、安佐北区農林課、          水車専門会社（長野県安曇野）、地元建築会社、地元住民など約 30 名</p> <p>② 雑木、枝木等の伐採及び整地作業を地域住民との協働作業（手作業）          10 回以上に及ぶ伐採作業、地ならし作業を実施</p> <p>③ NPO 狩留家と NPO 法人里山環境サポートセンターとが協働して伐採した木をチップ          にして有機肥料を作った。</p> <p>④ 小屋の建設フォロー 地域住民と協働（建築屋と住民）</p> <p>⑤ 給水管設置作業 地域住民による埋め込み協働作業</p> <p>⑥ 水車組立作業を子供や、近隣住民等が協働作業</p> <p>⑦ 水車のお披露目を狩留家住民を中心に約 100 名が出席して、餅つき、豚汁、ぜんざい          バーベキュー等を作り、皆で楽しんだ。</p> <p>⑧ 建設間もないのに、ホームページを見て、すでに数十名の外来者が訪問</p> <p>⑨ 3 月 24 日にはマイクロバスで 20 名の団体が市内から見学に来られた。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>広島市のまちづくりとして、広島市中心部から17kmの所に、安佐北区の名所が出来たことになり、最近水車の視察に行くたびに数人の見学者に出会います。来訪者は水車に対して哀愁を感じて「帰ったら友人に紹介しよう」とか「友達と一緒に又来よう」などと話しています。</p> <p>一緒に水車を組み立てた子供たちの反応も大変良く、作文にも自主的にしっかり書いて頂きました。広島市近郊に数カ所水車がある中で、林間にある水車として特に郷愁を感じられるようです。バスでの見学の要請も来ており、3月に既に20人のバスの団体客が見学に来られました。素晴らしい水車小屋だと感激されていました。</p> <p>来られた旅行案内の人や、フランス料理のお店を営む方達から、「外人や遠隔地の旅行者にもお勧めします」と言われました。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>水車小屋の建設そのものは大成功であったと思います。特に同じ水車でも安曇野から一級品を引っ張ってきたことは、話題づくりにもなりました。</p> <p>当初の企画どおり徐々にあちこちから静かに来訪者が増え始めています。今後狩留家全体として、水車をベースに来訪される外部顧客に何をプレゼント出来るかの検討が大切です。</p> <p>町内的には、メモリアルモニュメントの出現により「やれば出来るのだな！」というインセンティブになり次へのステップに取組み易くなりました。「出来るわけがない」から「本当に出来るの？」になり次には「一緒に検討しよう」になると思います。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>2年前までの狩留家では「何も人様にお見せできるものはない」、「狩留家だから、何もなくて当たり前」、「狩留家が発展できるわけがない」という風潮でした。しかし、今では、①中郡道 ②水車小屋 ③伝統芸能シャギリ ④九度瀬の滝 ⑤ゲンジボタル ⑥大山椒魚 ⑦柳瀬の吊り橋 ⑧広島市重要文化財西八幡神社 ⑨湯坂の美観棚田 ⑩武田信玄の伯父さんが開基した順正寺とその石垣⑪狩留家本陣(割庄屋)等のお宝が存在することに気がきました。このお宝を有機的に連携させて、広島大都市圏の方々に“ゆったりと散策出来る狩留家＝広島のカリフォルニア”として、アピールしていこうと準備中です。</p> <p>時期も良く、広島観光局主催の「広島とりっ歩」に「狩留家」が記載され、又国土交通省 中国地方整備局主催の「夢街道ルネッサンス」に「中郡古道(狩留家を通る)」が参画することになりました。</p> <p>高陽～白木迄の7つの郷土史研究会が協働して作成した「中郡古道散策地図」を合計15,000部増刷するに当たって、新名所「狩留家の水車」を入れます。</p> <p>又、狩留家駅前観光看板にも新名所、「狩留家の水車」を差し込んでいきます。</p>

注意: 助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、  
個人が特定できる情報(個人情報)は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	湯来町の自然・文化を伝える「古民家 SATOYAMA」改修プロジェクト
②実施期間	2013年4月1日～2014年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>立地: 本事業では湯来町の自然・文化を伝える場として古民家 SATOYAMA を補修・内装工事を行った。広島市佐伯区湯来町にある古民家 SATOYAMA は、旧国道沿いの湯来温泉入り口部分の賑わいが生まれやすい立地に位置する。築100年の木造建築で、当時の梁や縁側、吹きガラスが残される文化的価値の高い古民家である。立地や文化的条件から湯来町の自然・文化を伝えていく場としての可能性が高い。</p> <p>改修内容: 問題点は、古民家 SATOYAMA はトイレや台所の水回り整備が整っておらず、段差が多く活動に支障があることや、子供の授乳や託児スペースがないことである。工事では「自然・文化」を伝える場としての価値を高めるため、①台所改修、②トイレの設置、③一部床改修、④電気工事、⑤子供ルームの設置を実施した。</p> <p>工事の進め方: 地元職人を中心に工事を進める中で、素人でもできる箇所についてはボランティアを募集し、ワークショップ形式で作業を進めた。ワークショップは、大工による板の間の再生と左官によるタイル貼りの2点。板の間の再生では、地元の元大工の工場にて、足場板の表面の研磨をしたのち、現場大工の指導もと、溝掘り・打ち付けをした。タイル貼りでは、昭和にあったタイルキッチンを復元することを目的に、キッチンの天板と側面部分のタイル貼りを実施した。2つの作業において、毎回各2～10名程度のボランティアが参加した。</p> <p>修繕イベント: 修繕の始まり(6月)と中間(10月)にイベントを開催し、修繕のはじまりは、ホテルの飛翔ピーク時に音楽会を開催し古民家 satoyama の周知を図った。中間では、修繕に参加した職人・ボランティアを集め、修繕の模様を撮影したムービーの上映などをしながら参加者をねぎらった。</p> <p>古民家レンタル: 修繕の中間あたりから徐々に古民家レンタルを開始した。町外から子育てサークルのオフ会や、講師を招いての料理教室などのワークショップを開催。キッチンが完成したのちは、法人による企業カタログの撮影場としての利用が見られた。</p> <p>その他事業: 修繕中ではあるが、8月から耕作放棄地を利用したそば栽培の活動を実施。キッチン完成後はそば料理づくり体験なども行った。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 修繕中は、古民家や田舎で生活することを希望する方々の訪問が目立った。技術を学びたい人については、ボランティアとして参加してもらうことができた。生活情報の入手を希望する方については、湯来町に住む・住まないに関わらず、古民家を活用することの注意点を伝えると同時に、湯来町において田舎暮らしの先入者を紹介することなどができた。また、地元からも空き家情報が集まり始めた結果、訪問者のうち1組が湯来町へ移住、1組が物件情報待ち、1組が町外で古民家での生活をスタートさせている。どの世代も20代～30代のファミリーであり、若い世代に田舎暮らしや古民家の再利用について情報提供できたことは大きい。修繕した古民家を拠点に、耕作放棄地の再生や子育て事業を進めていることも評価が高く、活動全般のボランティアスタッフを希望する30代～40代も出てきた。徐々にではあるが、若者世代の生活者やファンを獲得することにつながっている。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 改修工事については、地元職人を起用したことで、修繕終了後も地域の中で古民家 satoyama を見守ってくれる主体を増やすことにつながった。計画を変更した点もあるが、目的はほぼ達成しており、利用用途や利用者の幅は広がった。以前は水回りがなかったことで開催することができなかった、料理教室は3回、草木染教室は5回実施することができた。古民家レンタルについては修繕中間時から徐々に開始し、利用者(講師)の開催するイベントについては毎回満員となっている。利用者を着実に増加させていく工夫として、修繕ボランティアに参加してもらったこと、修繕中から事情を説明して古民家レンタルを実施したことで、修繕の意図や古民家 satoyama への思いを共有ができた。そのことが利用の定着につながったといえる。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>古民家の修繕について：修繕中に一つの場所の歪みを調整すると、今まで問題がなかった部分が歪んでしまうということがみられた。今回で基礎部分の修繕はできたものの、今後も細々とした修理は必要となってくるといえる。その際は、古民家で生活したい人を対象に今回参加してくれた職人が講師となって「古民家で生活するための小技講座」などを開催したいと考えている。</p> <p>看板については、基礎は完了したので、これからボランティアを集めて、さらに豪華な看板を作り、「みんなの古民家」としての新たな古民家 satoyama の一歩を踏み出したい。</p> <p>古民家レンタルの増加：古民家レンタルのほとんどがイベント利用となっている。そのため、これまで湯来町へ訪問したことがない人がイベントを通じて湯来町を知るきっかけを得ている。よって、古民家レンタル数を増やすことは、湯来町の新たなファンの獲得につながる可能性が高いため、積極的に進めていきたい。</p> <p>古民家再生の価値を高める：湯来町では古民家 satoyama の修繕をきっかけに、コミュニティスペースとして空き家を再生する集落が増えてきている。どの空き家についても、修繕後の運営費の獲得について悩みを抱えている。これらの課題の解決に取り組むため、古民家 satoyama では、利用者に対しては100円程度の入場料を徴収するなどして、運営を継続する仕組みづくりをしていきたい。良好な事例を作り上げることによって、湯来町全体の空き家の再生が進み、人が集まる、何かが生まれる拠点として空き家の価値が見直されるきっかけを提供したいと考えている。</p>